

(1) 現地調査

①大豆生産を核とした飯崎地区の営農再開について

飯崎生産組合 組合長 水谷隆氏（南相馬市小高区）

福島県相双農林事務所農業振興普及部 永井華澄技師

小高区飯崎地区の基盤整備事業は、震災の影響で一時停止していましたが、平成 26 年より再開され、平成 32 年までに 100ha の農地を再生する計画としています。飯崎生産組合は当該地区の担い手組織として、平成 26 年より当該地区での試験栽培を開始し、平成 29 年より整備の終わった農地で本格的な作付を行っています。小高区の避難指示は平成 28 年に解除されましたが、担い手が地域に戻らず組合へ農地が集まるのが予想された他、用水確保の目処が立たないことなどを念頭に作付体系を検討した結果、新たに大豆に取り組むことにしました。本年度は大豆の他に、水稲、タマネギ、カスミソウを栽培しています。



<飯崎生産組合水谷組合長>

大豆については、「タチナガハ」「里のほほえみ」を栽培しています。うち「里のほほえみ」は平成 28 年度に県の奨励品種となっており、平成 29 年度に引き続き本年も県の実証展示ほを設置しています。「タチナガハ」と比較し、分枝や莢数は少なくなりましたが、百粒重が大きいいため収量が確保できるといった結果が出ているところです。

営農を再開した中で震災前と大きく変わった点の一つは、イノシシの数が非常に増え、それまではなかった食害が出るようになった点です。このため、電気柵を設置していますが、この管理に非常に労力がかかっています。

現在、組合員 5 名を中心に作業に従事していますが、今後、地域の農地を守っていくためには若い人材を確保していく必要があると考えています。しかしながら、避難指示区域であったところなので、若い人たちが帰ってきていないのが現状です。これに対して外部の力を借りて取り組んでいくべきなのか、地元の人々の力を借りて取り組んでいくべきなのか、どういった方法で取り組んでいくのが直近の課題です。

東北大豆セミナーin ふくしま 現地調査

大豆生産を核とした飯崎地区の営農再開について

1 飯崎生産組合

- 設立 平成22年9月（基盤整備地区の担い手組織として）
- 構成員 8名（組合長：水谷隆氏）
- 栽培品目（平成30年度）
 - 大豆 26.2ha 「タチナガハ」「里のほほえみ」
 - 水稲 12.0ha 「天のつぶ」（飼料用米）
 - タマネギ 30a（春まき）、
 - カスミソウ 3a

2 営農再開に向けた取り組み

- ・飯崎生産組合では、営農意欲を維持するため、平成26年度に大豆の試験栽培を開始した。
- ・平成28年度には、本格的な営農再開を見据えて、大豆・水稲を作付け。
平成28年に小高区の避難指示が解除されたが、担い手の減少により、生産組合へ農地集積が進むと予想された。そこで、比較的省力化がはかれる土地利用型作物を経営の中心に位置づける必要があると考え、大豆に本格的に取り組むこととした。
- ・平成29年度からは、基盤整備後の農地で本格的作付けを始め、作付面積を拡大している。また、現在は経営体を強化するため、平成30年9月の法人化に向けて活動中。

3 今後の課題

- ・大豆の収量・品質向上
- ・省力的な技術の導入
- ・経営体の強化（法人化、労働力の確保）
- ・水利施設・農道等のインフラの維持管理
- ・鳥獣害対策、電牧の管理

「里のほほえみ」の栽培概要（平成29年産）

表1 耕種概要

品種	「里のほほえみ」「タチナガハ」
明渠作成	ほ場周囲とほ場内 溝掘機
耕起、碎土	サブソイラ、スタブルカルチ、バーチカルハロー
吸収抑制対策	硫酸カリ 100kg/10a
土壤改良剤	苦土石灰 80kg/10a
種子消毒	クルーザーMAXX(キヒゲンR-2フロアブル)
播種	5/30 条播 播種量 6kg/10a 条間:70cm アッパーカッターロータリー
基肥	豆プロ-発 20kg/10a N-P ₂ O ₅ -K ₂ O 5.0-2.0-1.6kg/10a
除草	5/31 エコトップ乳剤
中耕培土	6/22、6/30 (6/22)
除草	7/8 大豆バサグラン液剤、ワンサイドP乳剤
病害虫防除	8/23 アミスター20フロアブル、トレボンエアー 9/4 マネーヅDF、Mr.ジョーカーEW 無人ヘリコプター散布
収穫・乾燥	11/22
調製	12/5～

()内は「タチナガハ」

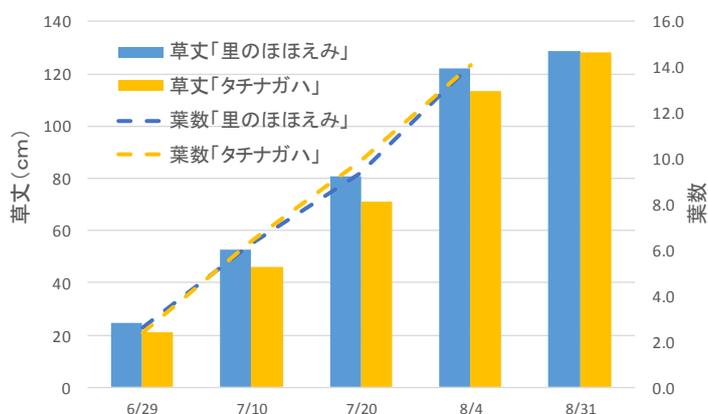


図1 生育調査結果

表2 生育ステージ

品種	播種日	出芽期	5葉期	開花期	成熟期
里のほほえみ	5/30	6/9	7/6	7/28	11/1
タチナガハ	5/30	6/9	7/6	7/28	11/1

表3 成熟期調査

品種	主莖長 (cm)	主莖節数 (節)	分枝数 (本)	稔実莢数		不稔莢数 (莢/本)	最下着莢高 (cm)	莖の太さ (mm)	倒伏 (11/16 調査)
				(莢/本)	(莢/m ²)				
里のほほえみ	94.9	16.1	3.8	41.8	552	2.4	26.0	10.0	微 0.1
タチナガハ	90.7	17.3	5.0	48.4	726	1.7	25.1	9.6	微 0.2

表4 収量・品質

品種	精子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	紫斑粒 (%)	褐斑粒 (%)	虫害粒 (%)	裂皮粒 (%)	しわ粒 (%)	腐敗粒 (%)	未熟粒 (%)	その他 (%)
里のほほえみ	25.5	45.0	1	1	13	33	10	11	1	1
タチナガハ	24.3	39.9	1	1	25	15	12	9	1	1

「里のほほえみ」の生育は「タチナガハ」並。「里のほほえみ」は葉色が濃く、ウコンノメイガが集まりやすいため、8月の発生に注意が必要。最下着莢高は「タチナガハ」よりもやや高く、機械収穫適性が高い。「里のほほえみ」は「タチナガハ」より分枝や莢数が少ないが、百粒重が大きく収量を確保できる。また、品質については「タチナガハ」並～やや優れる。ただし、「里のほほえみ」は大粒の品種で、裂皮しやすいので、早播きは避ける。

南相馬市小高区飯崎地区の営農について ～飯崎営農組合の作付け状況図～

- 南相馬市小高区飯崎地区では、震災の影響で一時停止していた基盤整備が平成26年度より再開され、現在も工事が進んでいます。
- 平成30年度は、飯崎地区の担い手である飯崎生産組合が基盤整備後の農地で大豆22ha（「タチナガハ」16ha・「里のほほえみ」6ha）、水稲12haを作付けしています。



大豆の生育状況(平成30年7月19日撮影)